

海外研修



海外研修日程 — ブラジル —

日時	プログラム	滞在先
7/29 (水)	関西国際空港発	機内泊
7/30 (木)	ドバイ着・ドバイ発 サンパウロ着	サンパウロ
7/31 (金)	JICA ブラジルの活動紹介・安全ブリーフィング・日系社会ボランティアとの交流 東洋人街見学（リベルダーデ地区） ブラジル日本移民資料館見学 振り返り	サンパウロ
8/1 (土)	イピラプエーラ公園視察 サンパウロ市営市場視察 交番プロジェクト視察 振り返り	サンパウロ
8/2 (日)	サンパウロ→サントス移動 コーヒー博物館見学 サッカー博物館（サントスFC）見学 移民の碑（日本移民ブラジル上陸記念碑）見学 振り返り	サントス
8/3 (月)	サントス日本語学校・文化会館訪問 オンダリンバ事業視察 厚生ホーム訪問 サントス→サンパウロ移動 振り返り	サントス
8/4 (火)	PIPA 自閉症児支援事業プロジェクト視察 マルピアラ学園訪問 サンパウロ発 ベレン着 振り返り	サンパウロ
8/5 (水)	Ver o Peso 市場視察 アマゾン水銀汚染モニタリング視察 振り返り	ベレン
8/6 (木)	日本語学校越知学園訪問 ブラジル国立宇宙研究所視察 振り返り	ベレン
8/7 (金)	ベレン→トメアス移動 ACTA（トメアス文化農業振興協会）訪問 トメアス日本語学校（JICA 日系社会ボランティア）訪問 CAMTA（トメアス総合農業協同組合）訪問 振り返り	トメアス
8/8 (土)	小長野農場（アグロフォレストリー農場）視察 CAMTA 熱帯果実加工工場見学 ホームステイ	トメアス
8/9 (日)	トメアス→ベレン移動 ベレン発 サンパウロ着	サンパウロ
8/10 (月)	サンパウロ出張所にて研修報告会	サンパウロ
8/11 (火)	サンパウロ発 ドバイ着	機内泊
8/12 (水)	ドバイ発 関西国際空港着	



訪問先所感



▼ 海外研修ブリーフィング／日系社会ボランティアとの交流

この研修で学んだことを子どもたちに伝え続けることで、広い視野や国際感覚をもった子どもの成長に影響を与えられる、というサンパウロ事務所の遠藤次長の言葉が心に残っている。また、ボランティアの方から、日本とブラジルの子たちの自尊感情の違いについての話を伺った。これから、学校を訪問する上での視点として注目したい。【山口】

▼ リベルダーデ地区の視察

スーパーにそばやお茶、おにぎりが売られていた。本屋さんでは、日本から移住してきた人にも出会った。地球の裏側に来たのに、ここを歩いていると、あまりその実感が湧かなかった。日系文化はブラジル文化の一部を担い、自然に溶け込んで受け入れられているということがわかった。地球の裏側に日本がある。そのことを実感した最初の出来事だった。【山本】

▼ 移民資料館視察

日本から移民としてやってきた方の歴史や、当時の方々の思い出がたくさん展示されていた。その数々の品の中に多くの思いがあり、それを感じることもできる場所であった。今回の研修で訪れる日系ブラジル人の家庭農園や日本語学校では、日系人の方の思いや考えに直接触れ、彼らの成功を目の当たりにするため、今後の研修がさらに楽しみになった。【福岡】

▼ イビラプエーラ公園の視察

週末ということもあって、多くの市民がランニングやウォーキング、体操など楽しんでた。人の多さと活気にブラジルパワーを感じた。日系人の開拓先没者慰霊碑もあり、桜の花もちょうど咲いていて、日本とのつながりを再認識した。【木村】



▼ サンパウロ市営市場の視察

様々なマーケットからフルーツや肉の焼ける匂いがする。雰囲気はアジアに似ているが、彼らは決して押し売りをしない。そんなにもらっているの!? というくらい次から次へとフルーツの試食をさせてくれ、ブラジル人の陽気さや親切さを体感した。【橋本】



サンパウロ市営市場の視察

▼ 交番プロジェクトの視察

警察官の方がとても熱心に説明してくださった。子どものサッカー教室、家庭訪問での情報の聞き取り、図書館で子どもたちと宿泊することなど、地域との交流を深めることで事件を未然に防いでいる。また、警察官の方に地域の子どもたちが気さくに声をかけている様子からも、その効果はあらわれている。日本のシステムが役に立っているのは嬉しいことだ。【山口】



▼ コーヒー博物館の視察

コーヒーがブラジルに伝わった歴史を知り、コーヒーカップに入れられるまでの過程も、道具や映像を見てよく分かりました。ブラジル人にとってコーヒーは単なる農産物ではなく、生活から切り離せない1つのアイデンティティだと感じました。また当時の写真を見ながら移民がコーヒー豆の生産に携わった経緯を知り、より移民についても学びました。【藤原】

▼ サッカー博物館の視察

前日に交番へ訪問した際、小中学生の男の子に会った。彼らの将来の夢はサッカー選手だった。サッカーは、ブラジルのあらゆるところで行われるスポーツである。今回の博物館はサントス FC に特化したものであった。日本でも有名なペレやネイマールが以前所属している人気チームであるため、地元の観光客も訪れていた。ペレが今もなお神として崇められていることがよくわかった。【福岡】

▼ ブラジル移民の碑の視察

多くのブラジル人が集まる海岸にブラジル移民の碑があった。改めて、日本人が長い時間をかけてたどり着いた時のことを想像することができた。たくさん人の集まるこの場所に碑があることを誇りに思った。【森】



▼ サントス日本語学校・サントス文化会館の視察

日本以上に日本を感じる場所だった。私たちが知らない、昔ながらの日本の伝統を大切に、今日まで苦勞を重ねながら、その文化を継承されてきたかと思うと、その努力に勝るものはないと感じた。今の日本は、他の国の文化が入ることで、本来の日本を忘れてしまっているように感じた。どちらが良い、悪いという問題ではないが、日本の教育にもこの伝統や文化の継承に力を入れる必要があるように感じた。【田中】

▼ オンダリンパ事業の視察

日本では当たり前にある下水道処理がまだまだ普及されていない地域があることに驚いた。下水道処理が普及することにより、乳幼児の死亡率が低くなったのは、日本の技術が世界の役に立っている現れであり、誇りに思った。【山崎】



オンダリンパ事業の視察



サントス日本語学校・サントス文化会館の視察

▼ サントス厚生ホーム

幼い頃にブラジルに渡った方と、親になり子を連れてブラジルに渡った方とは、歩んだ人生が違う。子どもの学校をやめさせてブラジルに渡った母は、息子からは自分勝手と言われ続けた。日系人を日系人と一括りに考えることはできなくて、一人ひとりの背負ってきた人生は違っている。授業で扱う時には気をつけたい。地球の裏側で歌った「ふるさと」。今までに味わったことのない感情が込み上げて、不思議な感覚に陥った。【山本】

▼ P I P A 自閉症児支援事業の視察

日本と同じように授業前後に挨拶、お辞儀をして授業規律を守る様子、日本のプログラムを取り入れたことによって活動に参加することができる子が増えたのは嬉しいことであった。また家庭の協力の違いにより、その結果がはっきりと子どもにあらわれるということ、日本の教育でも同じだな…と感じた。【梶村】

▼ サンパウロ市内学校の視察

子どもの興味を引き出し、学ぶ意欲を育てていることに感銘を受けた。教育内容も情操教育を中心にカリキュラムが編成されていた。授業全体でシェアリングの機会を多く持ち、子どもたちがいつでも自分の考えを表現できる場を工夫しておられたのは、日本の教育も見習う必要があると感じた。【山崎】





▼ Ver o Peso市場の視察

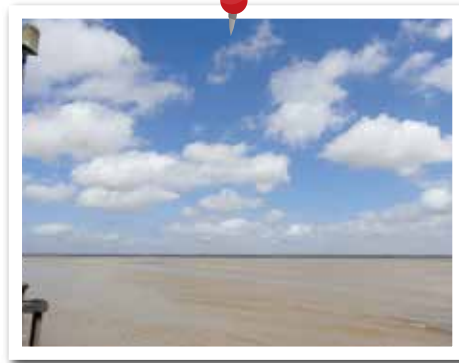
日本では見かけないピラルクの鱗を買うことができた。思ったより観光客が少なく、地元の人でにぎわっていた。アマゾンでとれた魚が売られているのを見て、人々の生活とアマゾン川が密着していることを改めて感じた。【山崎】



Ver o Peso 市場の視察

▼ アマゾン水銀汚染 モニタリングプロジェクトの視察

日本の水俣病の処理をもとにして、ブラジルでも水銀の問題を扱っていた。日本の技術が役に立っている一方で、まだまだ、水質の問題が全国的に取り組まれていないことがわかった。【森】



アマゾン水銀汚染モニタリングプロジェクトの視察



越知学園の視察

▼ 越知学園の視察

越智学園では、女性の社会進出支援を基礎として、情操教育や日本語教育に特に力を入れていた。子どもたちが出迎えてくれて、名前入りの名札や歓迎の合奏もあり、たいへんうれしかった。情操教育・早期外国語教育・自立させることなど、自分の子供を通わせたいと思わせるような内容だった。子供たちの交流で折り紙と筆ペンでの習字を行い、大成功だった。非日系の人からも人気がある学校で、改めて日本人の誇りと先祖の築き上げた歴史や文化に感動した。【木村】



▼ INPE INPE ブラジル国立宇宙研究所訪問

森林伐採や焼き畑が行われていないか、航空写真などを見て早期発見に取り組んでいる研究所。私は、悪徳業者が勝手に伐採していくのをチェックしているのかと思っていたが、持ち主が森を牧場にしたり、伐採したりしすぎることはないように調べていた。たとえ土地の持ち主でも、規定以上の伐採は違法とみなされ、ポリスに通報される。アマゾンの森を守るために法律ができていることを知った。【梶村】



越知学園の視察

▼ トメアス文化協会 (ACTA) 訪問

トメアス文化農業振興協会会長であり、日系三世でもある乙幡さんは、日本やアメリカで学んだことをトメアスに還元している。多くの小農家が焼畑を繰り返さず、同じ土地で安定して生活できるように、ブラジル人に苗を作るところから教えている。生活が良くなれば失業者は減り、盗むこともなくなり、治安が守られる。トメアス経済は日系人の手にかかっていることが分かった。生産性を上げ、現在のものに付加価値を付けることを考えるなど、未来に向かって努力されている乙幡さんの熱い思いがひしひしと伝わってきた。受け身ではなく、次々と学び、実行している姿勢に感銘を受けた。【山口】



▼ 日系社会ボランティア活動視察

日本人の血を持つ者としてその文化に誇りをもってほしい、という先代の願いを強く感じた。日系社会青年ボランティアの方がこの学校でどんな取り組みをされてきたのかを具体的に知ることができてよかった。【橋本】

▼ トメアス農業組合 (CAMTA) 訪問

アサイーを始め、多くのフルーツ、カカオ、胡椒などをメインに生産していた。日本にアサイーを広めた方とお会いし、今後の展望を聞くことができた。現在は日系人だけでなく、非日系人の方も組合に入り、日本の農業を学ばれる方もいる。またアグロフォレストリーの手法を世界各国から視察に来られる方も多く、地球の裏側のブラジルで活躍する日本人の姿を目の当たりにできてうれしかった。【福岡】



アグロフォレストリー農場視察

▼ アグロフォレストリー農場視察

農場を経営している小長野さんに、家族が移民したときの話や自分の生い立ち、アグロフォレストリー農法などを聞くことができました。一番心に残っているのは「小さな畑で丁寧に良い野菜を作る」という、日本人としての意志・血が自分に流れているという話でした。日本人としての誇りを絶やさず農業に取り組んできたその熱意が、教えられる人達に伝わり、アグロフォレストリー農業が広がっていったのだと思いました。【藤原】



CAMTA 果実加工工場視察

▼ CAMTA 果実加工工場視察

アサイーを初めて食べた。食べられる部分は種の周りの皮のみで、コップ一杯のジュースをつくるのに4倍のアサイーが必要だそう。カカオも、ブラジルはすっぱみを残したものと、日本は甘みがあるものと、好みに合わせてカカオを研究している。ブラジルのカカオが日本のチョコレートになっているという話を伺ったので、スーパーでチョコレートを探るのが楽しくなりそう。【山本】



▼ ホームステイ

ホームステイ先の娘さんの誕生日会が開かれ、ブラジルの誕生日会を堪能することができた。そこには多くの人が集まり、初対面の私たちも温かく受け入れてもらっている気がした。近所の人が集まって同じ食卓を囲むこの幸福感を、今の日本の子どもたちにも伝えたいと思った。【田中】

▼ JICA サンパウロ支所での報告

短い時間だったが一人一人思いを伝え合った報告会であった。十人十色、そんな言葉がぴったりくるこのメンバーとの研修を振り返り、実践報告が楽しみになった。おそらく近い将来、このメンバーの中から再びブラジルの地を踏む人がでてくるのであろうな、と思った。【梶村】





同行者より

海外研修に同行して

独立行政法人国際協力機構
関西国際センター（JICA 関西）
国際協力推進員 京都府担当 根木 尚子

この研修では関西の小中学校に所属する教員 10 名を対象に3日間の事前研修、2週間に渡るブラジル滞在、1日の事後研修が行われました。今回、私はその全日程に同行し、また各校での実践授業も見学させていただきました。

ブラジルでの現地研修においては当初、2週間休息なしのハードスケジュール、異文化での団体行動等によるストレスから参加教員のモチベーションが低下してしまうのではと懸念していました。しかし、全研修を通して、参加教員は最初から最後まで期待以上に意欲的な姿勢を見せてくれ、非常に有意義な研修となりました。その要因として、教員全員が現地研修のみではなく帰国後の長期的な取り組みをしっかりと見据えて一貫して意識を高く持ち続けたこと、また心身ともに疲労が蓄積されていた中、常に協力し、時には鼓舞し合い、互いに思いやりの心を忘れることはなかったことが大きかったと思われます。

そのような中、参加教員が ODA の現場視察や交流を通して積極的に人々と触れ合い、多くのことを学んだだけではなく、ブラジルの人々にも出会いを喜んでもらえる触れ合いができたことはその後の取り組みに良い影響を与えてくれたように思います。公園で出会った少年と笑い合ったこと、日系厚生ホームで出会った一世の方々と涙を流して日本の歌を歌ったことは、ブラジルに生きる「人」に焦点を当てた素晴らしい授業作りに役立ち、生徒の心を動かしてくれたと確信しています。

事前事後研修の講師を務めていただいた山中先生の教えの中に、「教育を受けた人というのは学び方を学んだことがある人である」というカール・ロジャースの言葉がありました。今回の研修では参加教員が国際協力やブラジルに関する知識をただ知るだけではなく、自身が成長するための学び方、人に伝えるための学び方を習得し、この言葉を体現していたように思います。多様な価値観の認め方や世界に山積する課題への向き合い方を身を持って学んだこの機会を利用し、引き続き教室での実践授業に存分に活かし、それに加えて今後は学校や地域の枠に囚われない広いネットワークに目を向け、発信していってけると強く期待しています。

教師海外研修は地域や国を越え、数えきれない方々のご理解とご協力により成り立っています。今年度の研修を通してブラジルで出会ったすべての方々、事前事後研修で深い学びの場を提供して下さった講師の皆様、本研修参加にご理解を示して下さった参加教員所属校の皆様、温かい歓迎と多大なご協力をいただいた JICA ブラジル事務所、サンパウロ出張所の皆様に心より感謝いたします。

